

# 比叡山 マルチ・クライミング

～ 松下塾 第8回岩登り講習会 ～

【報告者】坂本

【日時】平成19年11月25日(日) 2日目

【天候】快晴

【参加者】松下, 杉田, 野村, 田中, 坂本

## ルート 第1スラブ(スーパー)

### 報告

前日の鉾岳に続きいよいよ念願の比叡山のマルチ・クライミングに挑戦だ。

松下塾での岩登り講習会も、9月のアズマヤに始まり、今回で早くも8回を数える。「比叡に登る」、塾の当面の目標だった。私は、比叡がどんなところかも、全く知らぬまま、クライマーたちがその名前を口にするのを聞き、漠然と「まずは比叡」との憧れを抱いていた。今年中にその達成は難しいか・・・と諦めていたが、当初予定していた陶ヶ岳方面の天気が悪かったこと、杉田さんが参加したことで、思いがけずそのチャンスが巡ってきた。

私のパーティは、松下さん、田中さんと私の3人だ(杉田さん、野村さんは別ルート)。

全8ピッチ中、5ピッチをリードで登らせてもらった。正直、無我夢中で登ったため、今、改めてトポを見ても、どこをどう登ったのか、ほとんど思い出せない。比較的鮮明なのは、亀の甲スラブと、このルートの核心部に当たる7ピッチ目ぐらいだ。



《第1峰・南面》

### 亀の甲スラブ

その様相は正にその名のとおり、亀の甲羅のようになっている。甲羅の溝は、いずれもしっかりとしたホールドになるため、クライミング自体はそれほど難しくない。しかし、ちょっとしたトラブルが・・・取り付きからやや右を巻き甲羅の部分に入

っていくが、その際、ザイルの1本が岩角に引っかかり外れなくなりました。ザイルを緩めてもらい、何度か外そうと試みるがうまくいかない。少しクライムダウンすればいいのだろうが、怖くてできそうにない。仕方なく、両手でザイルを引っ張り上げ、ザイルを緩めてはその分だけ登る。こうしたことを何度か繰り返しながら、次のピンまで何とか進む。そこで一旦セルフビレイをとり、フォローの松下さんに少し登ってもらい、引っかかっていたザイルを外してもらう。

マルチでは、左右に大きく移動するため、こうしたことが起きやすいのだろう。上にばかり目が行くと、ザイルの流れを確認することがおろそかになる。これがもっと難しいピッチだったらと思うと…

## 7ピッチ目

いよいよ1スラ・スーパーの核心部。「無理だと思えばやめとけ。自分で判断しろ！」と塾長にハツパをかけられる。

私たちの1つ前のパーティのリードは、セミプロのガイドらしく、実にスムーズに登って行く。そのクライミングをしっかりと見ていた私は、「行きます！」と気合を入れ答える。

「最初は右により過ぎないように…と思いながら登ったこと」、「最もいやらしい部分を抜け、ヌンチャクでセルフを取って一休みしたこと」、それ以外はルートに関する記憶はほとんどない。無我夢中で登りきった。



憧れの比叡に登った。ピナクルに入って良かった。そしてなりより、優しく時に厳しくご指導いただいた松下さんに心から感謝します。

今回の銚岳・比叡は、天候にも恵まれ、11月というのにTシャツ一枚で十分なほど暖かった。皆がいつも話題にするだけのことはある。まだ入門ルートに登っただけだが、比叡はさすがに面白い。もっとレベルを上げ、もっともっと楽しみたい。